

開講年度	令和8年度	開講課程	博士前期課程
授業名	器官病態内科学特別研究		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	12単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病 (呼吸器内科学) 呼吸器疾患 (循環器内科学) 循環器内科学 (腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病 (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患、自己抗体		
担当教員 (下線: 科目責任者)	医	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 教授 松岡孝昭、准教授 森田修平 (呼吸器内科学) 教授 <u>山本信之</u> 、准教授 中西正典、准教授 洪 泰浩、講師 早田敦志、助教 泉 源浩 (循環器内科学) 教授 田中 篤、准教授 谷本貴志、講師 山野貴司、講師 黒井章央、講師 塩野泰紹 (腎臓・体内環境調節内科学) 教授 荒木信一 (リウマチ・膠原病科学) 教授 藤井隆夫、准教授 岩田 慈	
	薬		
授業の概要	糖尿病・内分泌代謝内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、リウマチ・膠原病科学の各分野において修士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究課題の設定から研究計画の立案、調査・分析などの方法を理解するとともに、計画に沿ってデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える地域の保健医療課題等の解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。		
到達目標	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病発症に関わる分子メカニズムを理解するための研究を実施できる。 (呼吸器内科学) 呼吸器疾患に関する課題解決のための臨床研究、基礎研究を実践することができる。 (循環器内科学) 循環器内科学における最新の形態学的及び生理学的診断法について修得する。 (腎臓・体内環境調節内科学) 体内環境調節機構の破綻に伴う病態を理解する。 (リウマチ・膠原病科学) 自己抗体・抗核抗体研究を通じて、全身自己免疫疾患患者診療に還元できる臨床研究を立案・施行できる。		

授業計画	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病発症に関わる分子メカニズムを理解するためのin vivo/in vitro研究手法の習得に向け指導し、実際に新知見の探求のための実験を行ってもら。得られた結果については発表の機会を設ける。(松岡孝昭/森田修平)</p> <p>(呼吸器内科学) 呼吸器疾患に関する臨床研究等について研究指導を行う。(山本信之/中西正典/洪 泰浩/早田敦志/泉 源浩)</p> <p>(循環器内科学) 循環器内科学における最新の形態学的及び生理学的診断法についての研究指導を行い、論文を作成する。(田中 篤/谷本貴志/山野貴司/黒井章央/塩野泰紹)</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 体内環境調節の破綻により惹起される病態に関する研究を指導する。(荒木信一)</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 関節リウマチ・全身性エリテマトーデス患者における自己抗体・抗核抗体研究を紹介し、当科で行える研究の立案に役立つようこの領域における現在の課題と方向性を講義する。また上記の計画のもと、自己抗体の研究指導を行う。(藤井隆夫/岩田 慈)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (研究課題の設定内容、研究の遂行状況) によりS (90点以上)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 特に指定しない。</p> <p>(呼吸器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(循環器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 特に指定しない。</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 特に指定しない。</p>